

西部地区特別支援学級 指導のポイント

～西部地区の子供たちの力をさらに高めるために～

□ 年齢や学年相応の言葉づかいをしている。

～ちゃん ⇒ ～さん ～だよね ⇒ ～ですね
はやくしなさい ⇒ ○○分までにしましょう



呼名の仕方等は校内で統一することが大切です。

□ 指示は短く、具体的な言葉で伝えている。

筆箱を持って、後ろに並んで、図書室に行きます。
⇒ ①図書室に行きます。②出席番号順に並びます。
③持ち物は筆箱だけです。



指示を板書するなどの視覚化も有効です。

□ 曖昧な表現を避け、できるだけ具体的な言葉で表現している。

だいたい、このくらいです。⇒ 縦30cm、横20cm、重さ10kgです。



具体的な表現を使うことで、思考のプロセスを確認することにもつながります。⇒「思考モデル」

障がい特性に応じた対応をする中で、よりよい「言語モデル」を目指しましょう。

□ 時・場所・状況に応じた適切な言葉づかいを意識している。

来校者と出会った場面で・・・

- ・御用件をお伺いいたします。
- ・校長室でしばらくお待ちください。よろしく願いいたします。



対応中の体の動きなども大切です。⇒「行動モデル」



□ 指示代名詞を使わず、具体的に話している。

「あれ」「それ」「あそこ」「そこ」
⇒ 体育館の東側の階段下に集合しましょう。



具体物を使ったり、図にあらわしたりするなど、他感覚に働きかけることも有効です。

□ 声の大きさに気を付けている。

声の大きさの視覚化 (例) 声のものさし



視線を合わすこと、身振りや表情等も大切です。⇒「行動モデル」

